

本別町地域公共交通活性化協議会

令和5年7月14日設置



概要

本別町は、北海道十勝東北部に位置し、面積は391.91km²、人口約6.2千人の農業が基幹産業の過疎地域であり、人口減少に伴い、地域内におけるバス利用者は減少傾向にある。しかし、町民や町外からの利用者の足の確保を図るための地域公共交通の整備は、地域における市街地商店街の活性化や通院患者等の移動の確保の面からも、大変重要な課題である。

○地域公共交通の現況

- ・十勝バス帯広陸別線（地域間1路線）
- ・本別浦幌生活維持路線（地域間1路線）
- ・町営バス（太陽の丘循環バス8系統、へき地患者輸送バス5系統、町有バス7路線・スクールバス7路線）

○地域公共交通の課題

- ・町内交通の利用者減少
- ・交通サービス維持のための財政負担増加や運転手不足
- ・交通サービスに関する利便性確保と周知徹底

○調査の主な内容

- ・地域内交通の実態整理
- ・町内交通の乗降データ分析
- ・住民アンケート（高齢者・学生）
- ・事業者ヒアリング

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和5年7月20日 令和5年度総会（書面開催）
 - ・設立総会
- 令和5年9月15日 第1回協議会
 - ・「本別町地域公共交通計画」策定に係る調査方針・調査設計について等
- 令和6年1月16日 第2回協議会（書面開催）
 - ・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について

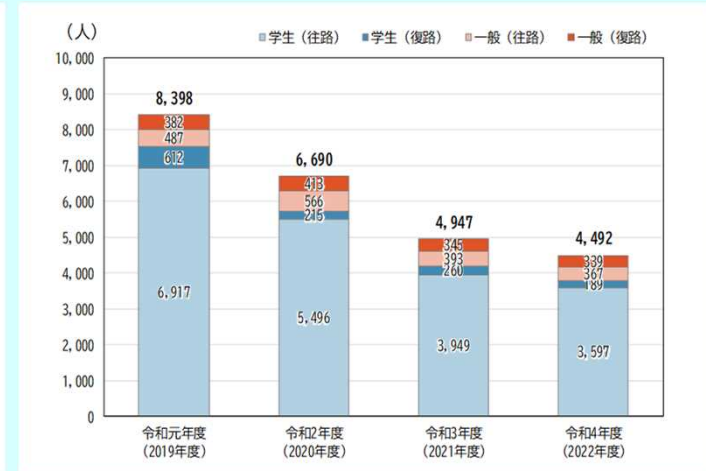
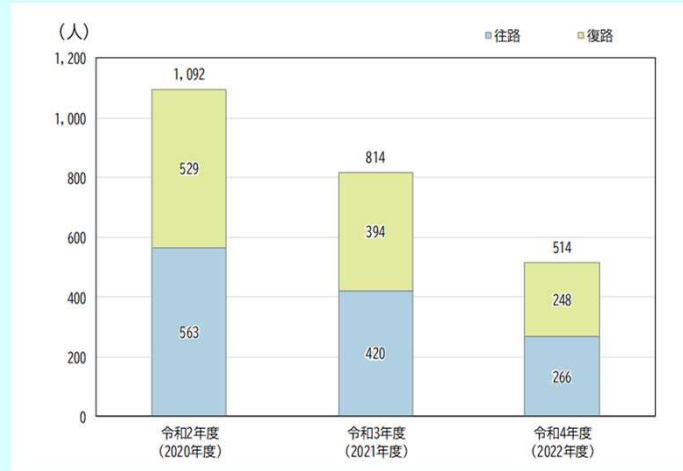
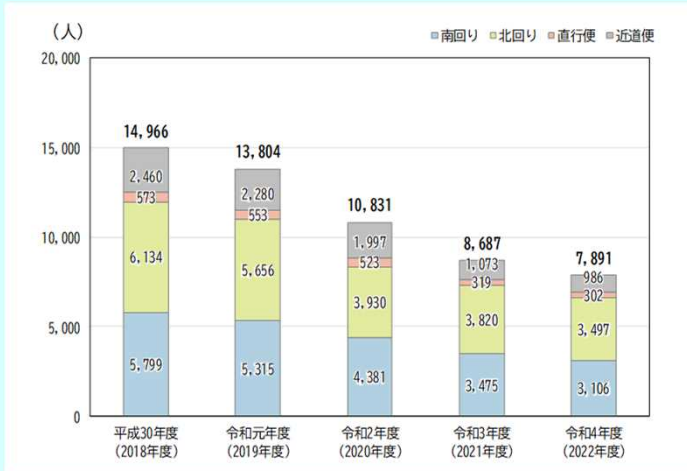
公共交通の概要



本別町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

地域内交通の実態整理



太陽の丘循環バス(市街地内)

- ・太陽の丘循環バスの利用者数は、減少傾向にあります
- ・令和4年度には、平成30年度の利用者数の47.3%減少しています

患者輸送バス(郊外部⇄市街地)

- ・患者輸送バスの利用者数は、減少傾向にあります
- ・令和4年度には、令和2年度の利用者数の半減以上の52.9%減少しています
- ・往路と復路で比較すると、往路の利用者数のほうが若干、多いです

本別・浦幌生活維持路線バス(町外⇄町内)

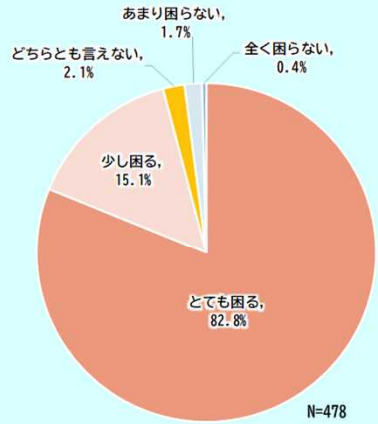
- ・本別・浦幌生活維持路線の利用者数は、減少傾向にあります
- ・利用者は、学生の往路利用が大半を占めています
- 往路：(朝)浦幌⇒本別、(夕)本別⇒浦幌
- 復路：(朝)本別⇒浦幌、(夕)浦幌⇒本別

町内外を運行する地域交通はいずれも利用が減少傾向にある。一方で、いずれの交通も町民等の移動を支える重要な移動手段となっており、「市街地内」「郊外部⇄市街地」「町内⇄町外」の区分それぞれにおいて、サービスの見直し等を含めて移動手段の持続性を確保することが課題となっている

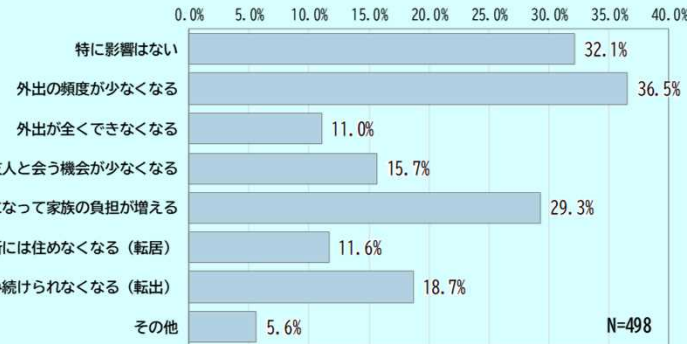
本別町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

アンケート調査概要(高齢者票)

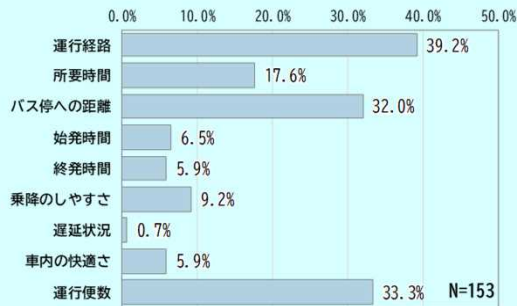


運転できなくなると困るか ・大半が運転できなくなると困ると回答している



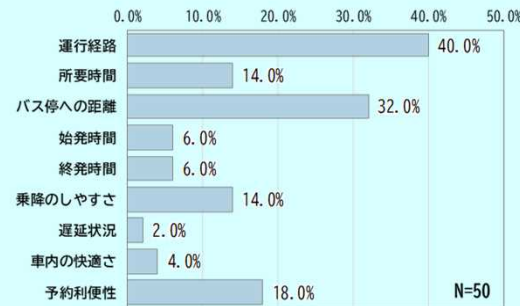
公共交通がなくなると困るか

・公共交通が無くなると外出頻度低下や送迎負担増加、転居・転出の可能性が示唆されている



太陽の丘循環バスの不満点

・運行経路や便数・バス停距離に関する不満が多い



患者輸送バスの不満点

・運行経路やバス停距離に関する不満が多い



本別・浦幌生活維持路線バスの不満点

・運行経路やバス停距離・所要時間・予約利便性に関する不満が多い



タクシー補助制度の不満点

・台数不足・補助金額の不足・補助金額に関する不公平感に関する不満が多い

主たる利用者である高齢者は、公共交通に対する潜在的ニーズが高いものの、現状のサービスには十分に満足できておらず、前頁の利用者減少を踏まえると、サービスの見直しの必要性が高いと考えられる

本別町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

■目指すべき将来像(案)

持続可能で安心・安全な地域交通ネットワーク

■課題の整理

- 1 バス利用者の急激な現象(太陽の丘循環バス/へき地患者輸送バス/町有バス)
- 2 増加傾向にある町財政負担
- 3 運転手不足・担い手不足の深刻化

■基本方針(案)

- 1 市街地交通の利便性向上
- 2 農村部交通の最適化
- 3 交通サービスの持続性確保
- 4 利用促進活動の徹底

■具体的な方向性の提案(案)

- 1 ターゲットを絞ったサービスの組み立て～高齢者の移動を守る
 - ・年齢や家族状況によるサービスレベルの格付けの検討
 - ・居住地域によるサービスの公平性を目指す
- 2 効率的なサービス「デマンド型運行」への転換～定時定路線から乗合デマンド型への転換
 - ・市街地循環から市街地デマンドへ
 - ・農村部5系統定時定路線から農村部デマンド導入の検討
- 3 タクシーサービスの維持確保方策～タクシーチケットのカタチを再検討
 - ・時間帯や曜日のニーズをコントロールして運転手不足をカバー
- 4 各交通体系の棲み分け
 - ・市街地を走るタクシーと循環バス、農村部を走る患者輸送バスと町有バスの役割の明確化

本別町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

各種調査結果及び計画策定の基本方針等を踏まえ原案を策定し、2月上旬に開催される協議会において計画策定の方針や具体的な施策内容について協議を行う。その後パブリックコメントを経て、3月中の協議会に諮り、令和5年度末には計画策定の予定である。

●事業実施の適切性

- ・事業が計画通り、適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・今後、地域公共交通計画策定の際は、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。